

若い女性も、性機能の衰えた前立腺肥大オジサマとなり、貞操の危機の心配なくレジャーを遊しめることだろう。もつとも近頃の若い女性は「そんなんじやツマラナイわ……」というかも知れないが、医者としての私はそこまで介入できない。

眞の老化に注意を

老化現象には二種類あつて、「見掛けの老化」は三十代におこり、「眞の老化」はこれより十年から十五年おくれで、五十代に入つてから現われてくる。

老人病のおもなものは別表のように骨接の痛みから、歯槽膿瘍、高血圧、動脈硬化、脳出血、癌、前立腺肥大……とおおい。

セックスを楽しむということは、人間の大きな喜びのひとつだが、この老人病のうちの前立腺肥大症になると、性機能が働かなくなり、接触不能になつてしまう。

前立腺というのは、男性の男性器の根元を粟の突くくらいの大きさでとりまいているが、内臓が年をとるにしたがつて萎縮するのに逆比例して、前立腺は年をとるにしたがつて大きくなつてくる。

前立腺が大きくなり、前立腺肥大症となる

と、尿道が圧迫されるので、便所にいつても元気がよくない。そのくせ何回も便所に通うようになる。年輩の人が、便所に近いのはこのせいもある。

ところが困つたことに前立腺肥大症になると性機能はいうことかなくなつて、人生の落日のさびしさを味合わなければならぬ。

このときになつて、一生けんめいにツバキをのみ込んでもおそいのである。だから、早いうちから心がけなくてはいけない。

年をとると、身体の中にある男性ホルモンも女性ホルモンも少なくなつてくるが、とくに女性ホルモンの方がガタンと減少する。その反動として、性欲が高まつてくるが、機能が働かなくなつてはしようがない。

性機能をいつまでもフル回転させるためには、唾液のみ運動はつづけた方がいい。

効かない健康法もある

私はこの年になるまで、医者として、さまざまな健康法に興味をもつてきたが、だいたいの健康法などというものは、その人に効果があつたからといつて、他人さまに必ず効果があるとはいえないことを発見した。冷水マッサージがいいといつて、六十の手なりに始めた

人が風邪で寝込んでしまつた例もおおい。したがつて、私はその人の体質に合つたものをしてなければだめだという結論に達した。

そんな中で、この唾液腺ホルモンの吸入は、人体構造上必要な事がないので、どなたにもすすめられるのが嬉しい。

睡眠も若いころは八時間、近ごろは五時間ほど。よく寝て、よく働いている。よく聞く話で、永いこと会社や役所勤めした無遅刻無欠勤者が、定年退職して二、三年して、ポツクリ死んでしまつたという例がある。これなど頭の回転をストップさせたことに原因があるとおもふ。

頭はいつまでもつかわなければいけない。定年で仕事が終わつたので、いつきに空虚になつてしまつたわけだろう。このような人には、ほかに熱を入れる趣味も仕事も持たないことがおおい。

私は、アマチュア・マジシャンズ・クラブの会長をつとめ、長唄は文化勲章をもらつた吉住小三郎氏を先生として、奇術と長唄の趣味で大いに生活にうるおいをもたしている。こんなことが、唾液の運動とともに、私をして健康長寿の道のあるかしているのかも知らない。

海外・性科学ニュース

世界に拡がる

新流行のセックス「スパンキンダ」(尻打ち)

ラケットで相手の女性の尻を打ちながら、徐々に性欲をかめるこのプレイは、アメリカから北欧にまで波及し、やがて日本にも上陸しようとしているが……

解説家 中 沢 進

いい眺めだ！

四つんばいになって偉大なヒップを

「いまアメリカで最も流行しているセックスの風習はと聞かれたら、ぼくはスパンキングだと、まよわずに答えるな。ワイフ・スワックピングやLSD遊びなども盛んだが、参加人員の点では、スパンキングの足もとにも

及ばないよ」

アメリカ最大の男性風俗雑誌「プレイボーイ」のある記者は、ごく最近ニューヨークの社交クラブで、こんな発言をした。アメリカ中に張りめぐらした「プレイボーイ」の情報網を動員して集めたデータにもとづく結論だ

から、信用がおけるだろう。

ところで、スパンキングとは、いったいどんなものだろう？

耳なれない人もあるかもしれないが、ごく単純なことである。一口でいえば、お尻をパチンパチンと打つことだ。

アメリカでは、両親が子供をしかるとき、めつたに頭をなぐらない。子供をひざの上につぶせにのせ、お尻をむきだしにしてパチンパチンとぶつのである。

これが、いつのまにか大人同志のセックス遊戯に発展したというわけだ。

前置きはのくらしいにして、P誌記者ロン

